

# 愛・地球博記念公園

## 基本計画

### < 概要版 >

平成19年3月

愛知県建設部公園緑地課

# 目 次

## 1 . 整備・活用の方針

- ( 1 ) 整備・活用の目標 . . . . . 1
- ( 2 ) 整備・活用の柱と取り組みの視点 . . . . . 2
- ( 3 ) 地域から世界まで幅広い連携 . . . . . 3

## 2 . ゾーニング

- ( 1 ) ゾーニング . . . . . 4

## 3 . 整備内容

- ( 1 ) 各ゾーンのソフト展開 . . . . . 6
- ( 2 ) 基本計画図 . . . . . 7
- ( 3 ) アイデアのひろば . . . . . 9
- ( 4 ) 主なひろばの整備イメージ . . . . . 13
- ( 5 ) 県民と行政とのパ - トナ - シップによる公園整備と管理運営 . . . . . 16
- ( 6 ) 「サステイナブル・パーク」の実現に向けて . . . . . 18

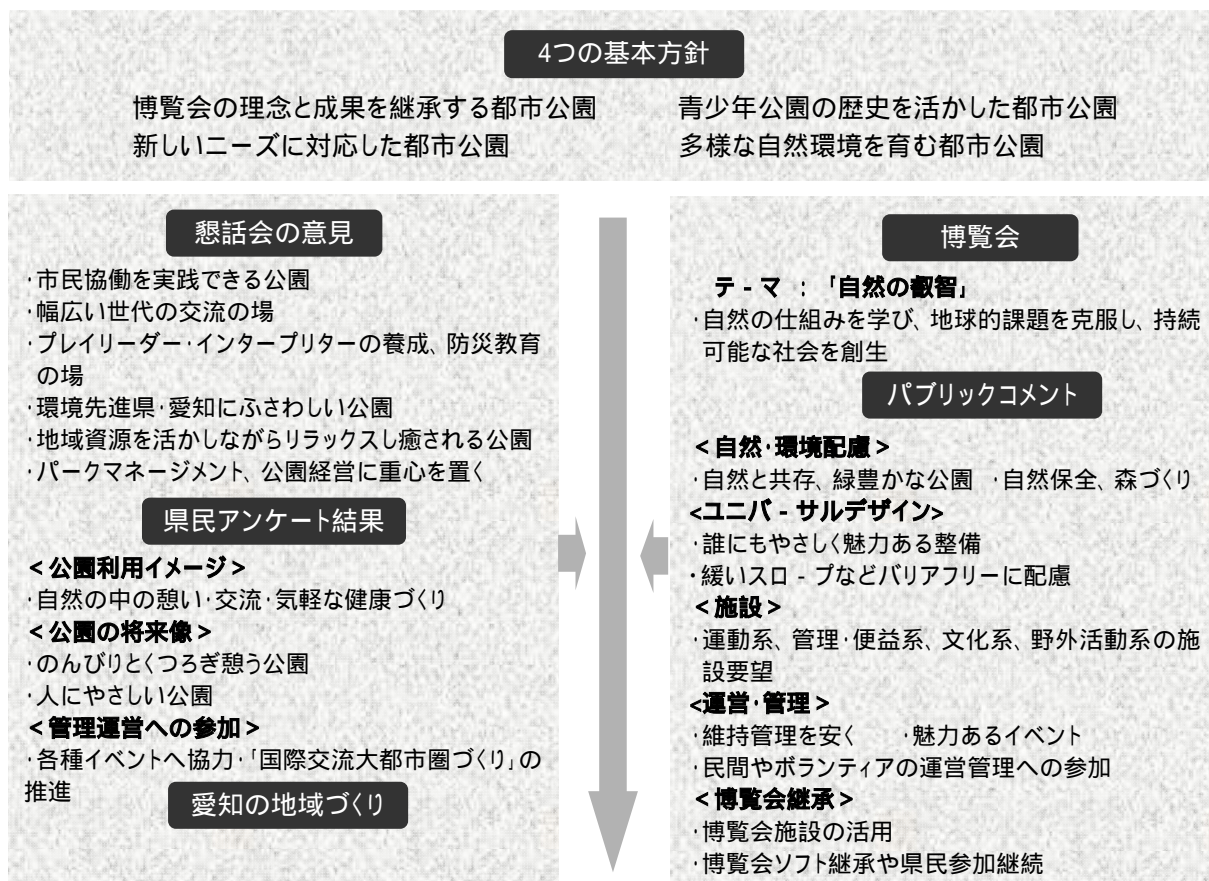
## 4 . 災害時における活用

- ( 1 ) 災害時における活用 . . . . . 20

# 1. 整備・活用の方針

## (1) 整備・活用の目標

計画の骨格となる「整備・活用の方針」は、都市計画決定時（H14年度）に設定した「4つの基本方針」を前提として、計画策定に先立って開催された「21世紀にふさわしい公園を考える懇話会」、「県民意見アンケート」等の内容を踏まえ検討を進め、以下のように目標を設定した。



## 整備・活用の目標

昭和45年の開園以来、多くの県民に親しまれてきた愛知青少年公園は、「愛・地球博」の主会場を担ったことを契機に、博覧会后、これまでの公園の歴史と博覧会の理念と成果の継承を基盤として、21世紀にふさわしい広域型の都市公園として新生する。

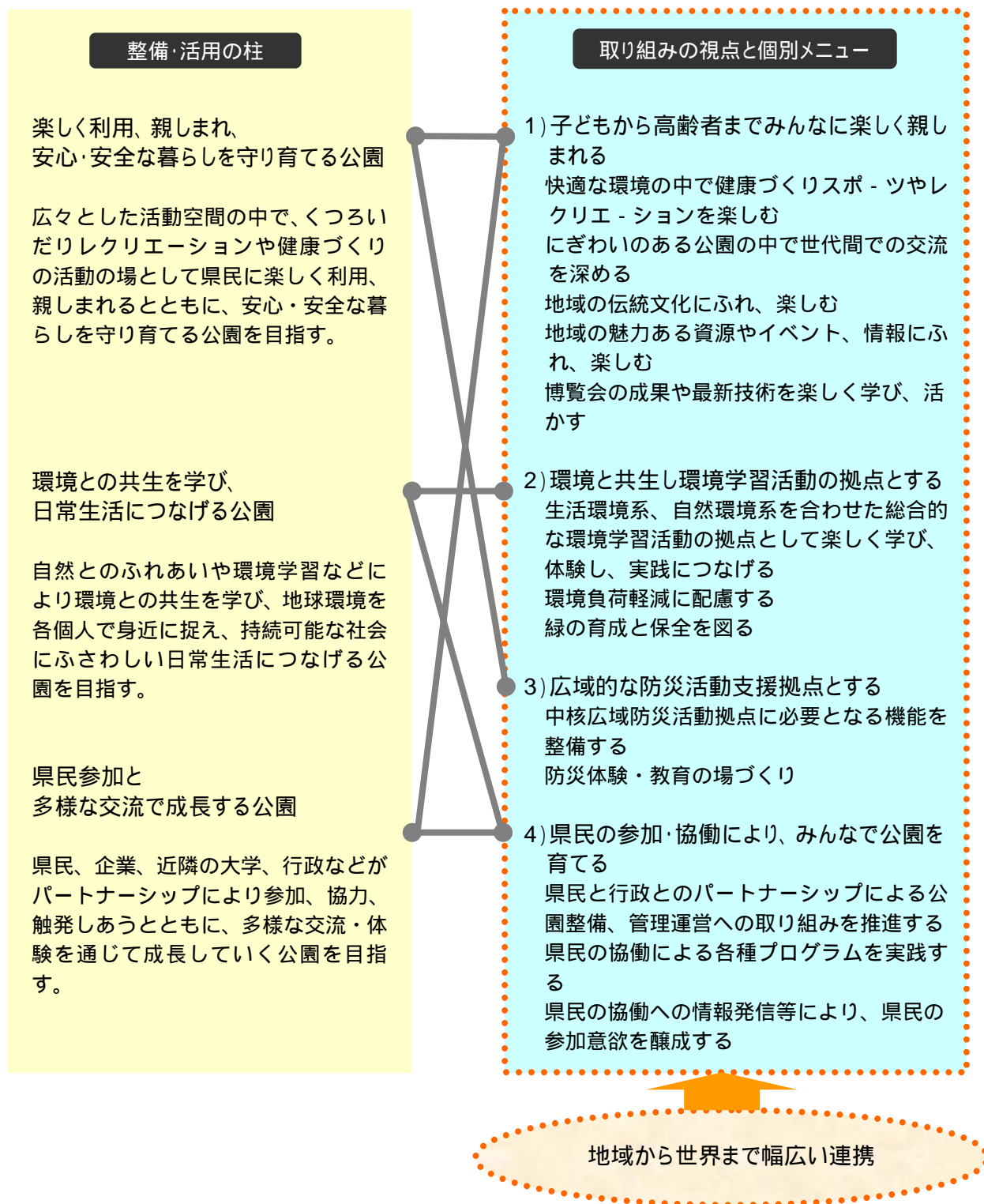
新しい公園は、健康で精神的な豊かさと楽しさに満ち、県民と共に成長・進化し続ける21世紀型の公園～サスティナブル・パーク～を目指す。

サスティナブル・パークでは、人々は広大なフィールドに身を置いて心と身体を解放し、楽しさを体感しながら、家族、仲間、地域、世界、自然、環境などとの関係を再構築し、より良い関係を維持していく。そして、それは自分らしい生き方を大切に、豊かさを実感できる県民生活の実現への取り組みとなるものである。

「サスティナブル」は「持続可能な」という意味であるが、ここではさらに「県民と共に成長・進化し続ける公園」といった意味合いを含むものとして捉えている。

## (2) 整備・活用の柱と取り組みの視点

「整備・活用の目標」を実現していくための指針となる「整備・活用の柱」、及び、その具現化を図るために、地域から世界まで幅広い連携を視野に入れて「取り組みの視点と個別メニュー」を以下のとおり取りまとめた。



### (3) 地域から世界まで幅広い連携

愛知県の「国際交流大都市圏づくり」の推進に向けて、NPOや地域等との連携の場として活用を図る。

#### 魅力あふれる世界の交流舞台づくり

NPO・市民団体・自治体など地域から世界まで幅広い連携の場として活用

愛・地球博で世界に「愛知」を発信した本公園は、愛知県における魅力あふれる世界の交流舞台づくりの場となるよう、NPO、市民団体、自治体など地域から世界まで幅広い連携の場として活用を図っていく。

#### 活力と魅力ある地域づくり

地域観光資源と連携

本公園の周辺には、文化・歴史・産業等の観光資源が分布しており、公園とそれらとの連携により地域全体の魅力が高まっていくようにする。また、充実した交通ネットワークやセントレアへのアクセスを活かし、県外の人々に愛知を知ってもらうなどの展開を推進する。

#### 環境に関する情報発信や教育の場

ア) 環境に関する先端技術紹介、研究発表や教育の場

研究機関、企業、教育機関と連携

企業や研究機関等と連携し、環境に関する先端技術の紹介の場、体験の場、実験の場として公園を活用する。また、近隣大学と連携し教育カリキュラムの場として公園を活用したり、研究発表の場として広く来園者に研究成果を知ってもらう場として活用してもらう。

イ) 地域における自然学習や緑化活動、健康・食に関わる環境学習イベントの展開

周辺関連機関や他の県営公園等と連携

公園周辺の自然学習施設（あいち海上の森センターなど）と地域に関わる自然学習の情報やプログラムの連携などにより、自然への理解が地域全体で深まっていく展開を図る。また、近接した位置にある愛知県緑化センターと緑化活動、緑化啓蒙イベント等や植栽管理面で連携したり、周辺市町村や関連機関等との連携により食にかかわるイベントや環境学習イベントを開催する。



## 2.ゾーニング

### (1)ゾーニング

公園のゾーニング（空間構成）は、以下の図に示すとおりである。また、各エリアの性格と主な利用イメージを次頁に示した。

ゾーニング図



各エリアの性格と利用イメージ

名 称	エリアの性格	利用イメージ	
ひろはのゾーン	みんなのひろば	水と緑の中での多様な交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>池や水路などの水辺空間や背後にある樹林地を取り込んだ魅力的な交流空間</li> <li>芝生広場のような多目的利用が可能な開放的な空間で、子どもから老人までの幅広い公園利用者が、多様な交流を賑やかに展開</li> <li>各種イベント・プログラムの展開、県民協働による公園づくりプログラムの実施</li> <li>野外活動、資源循環・自然エネルギー等についての体験学習、デイキャンプ利用</li> <li>災害時における防災支援活動拠点として利用</li> </ul>
	こどものひろば	子どもの遊び・体験・レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの遊び・体験・レクリエーションの場として利活用</li> <li>愛知県児童総合センター、愛知国際児童館との連携</li> <li>自然エネルギーを活用した遊具や施設、利用プログラムの導入</li> <li>県民協働による子どもを中心とした公園づくりプログラムの実施</li> </ul>
	健康スポーツひろば	健康づくりスポーツを家族や仲間と楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑に囲まれた広い空間、環境を活かした県民の複合多目的な健康づくりスポーツの場（サッカー、野球など）として利用</li> <li>利用メニューは、旧公園の利用実態や周辺分布状況を考慮し決定</li> <li>災害時における防災支援活動拠点として利用</li> </ul>
	北エントランスひろば 西エントランスひろば	エントランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園の顔となる華やかな空間</li> <li>環境共生に配慮した空間</li> <li>公園全体案内や情報提供</li> <li>リノモ公園駅や駐車場からの安全で快適な利用</li> <li>公園の全景を見渡すことができる（北エントランス）</li> <li>防災時の緊急車両駐車スペースとして利用</li> </ul>
	アイデアのひろば	博覧会の理念と成果の継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>博覧会の理念と成果の継承の核となる場</li> <li>博覧会成果を継承、例えば資源循環などへの取り組みを関係機関や団体、企業、市民と協働で実践</li> <li>博覧会で培われた交流の場としての継続的活用</li> <li>博覧会の記録展示・保存やメッセージの発信</li> <li>公園管理運営、休憩、飲食、屋内運動、防災支援の場として利用</li> </ul>
	林床花園	四季折々の樹林風景を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサル園路を利用して誰もが森に入って四季折々の風景を楽しむ</li> <li>環境学習の場として利用</li> </ul>
	日本庭園	伝統文化とのふれあい	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域伝統文化とのふれあい拠点として多面的に利活用</li> <li>鑑賞会、茶会、月見会、お花見会等、各種イベントを、関係団体や県民等とのパートナーシップによる開催を検討</li> </ul>
	親林楽園	自然学習・野外活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹林地内での活動を通じて身近な自然にふれあい、学習し、自然環境への理解を深める場として利用</li> <li>フィールドセンターを活動拠点として利用</li> <li>リサイクルセンターでは刈草・剪定枝をチップ化及び堆肥化し、園内リサイクルを実践</li> </ul>
南部樹林地	緑地保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹林地保全のために整備を抑制するエリア</li> <li>観察会等の環境学習プログラムとの連携により、必要時に開放し、自然学習・教育活動を実施</li> <li>インタープリター活動と合わせての利用を検討、エコツアーの実施など</li> </ul>	

### 3. 整備内容

#### (1) 各ゾーンのソフト展開

公園が一定の目標に向かって成長できるよう、園内で展開されるソフトプログラムについて、整備・活用の方針から導かれる共通テーマを設定する。本公園が目指すのは「サステイナブル・パーク」であり、共通テーマとしては、「環境と健康」「参加と交流」の2大テーマでの展開を進めていく。「環境と健康」は、互いにリンクした深い関係にあり、豊かな県民生活実現には不可欠なものである。また「参加と交流」は、博覧会の成果そのものであり、県民と共に成長・進化し続ける公園づくり推進の最大の原動力となるものである。

各エリアでは、この2大テーマに沿い、多様なプログラムを県民協働により実践していく。公園管理運営の中心となる「公園マネジメント会議」は、これらを全体的に統括していく。なお、これらのソフトプログラムは、活動の展開や種類に応じて、公園内から公園外へも広がりを持つものである。

共通テーマに基づいたプログラムの方針及び運営プログラム例

展開エリア	2大テーマ	
	環境と健康	参加と交流
こどものひろば	子ども向けの身近な生活系環境学習 ・省エネカー・ソーラーカー体験乗車 ・生活環境教育要素遊びのプログラム など	子どもの遊び、多様な体験交流 ・遊びの王国づくり、物語ひろばづくり ・ツリークライミング、グローイングビレッジ ・子育て支援・各種遊びのプログラム など
みんなのひろば	環境、生活、健康に関する総合的環境学習 ・地域種による花畑づくり ・サステイナブルな県民公園づくり ・人間の出すCO2体感イベント など	国際交流、地域間交流、博覧会を継承した交流 ・各種県民参加プログラム ・県民花づくりプログラム ・キャンプリーターとのクッキング教室 ・季節の地元食材の青空レストラン など
アイデアのひろば	環境負荷軽減に配慮した環境技術等の学習 ・地域種による森づくり ・展示による最新環境技術の学習プログラム ・建物内の環境技術見学ツアー など	国際交流、博覧会を継承した交流 ・フレンドシップ事業継承関連イベント ・県民森づくりプログラム ・愛・地球博交流アーカイブ など
健康スポーツひろば	豊かな緑の環境の中での健康づくり ・環境と健康の関わり体感プログラム ・ヨガやウォーキングイベント など	健康づくり、スポーツを通じた交流 ・マラソン・ジョギング大会 ・各種スポーツ大会 など
日本庭園	自然・文化・昔の知恵・和の精神などに関する体験・学習・イベント ・自然と融合した庭園を活用した造園技術講習会 ・日本庭園でのヒーリングイベント など	伝統・歴史・文化に関するイベント ・県民参加の伝統文化継承プログラム ・日本独自の文化・季節行事 ・あかりアート など
親林楽園 林床花園 南部樹林地	自然や資源循環の環境学習や、緑の中での健康づくりイベント ・環境学習・樹林管理プログラム ・緑のリサイクルセンター見学、堆肥配布会 ・インタープリターガイドツアー ・森の中でのヨガやウォーキングイベント など	自然を通じた交流活動 ・インタープリター養成プログラム など

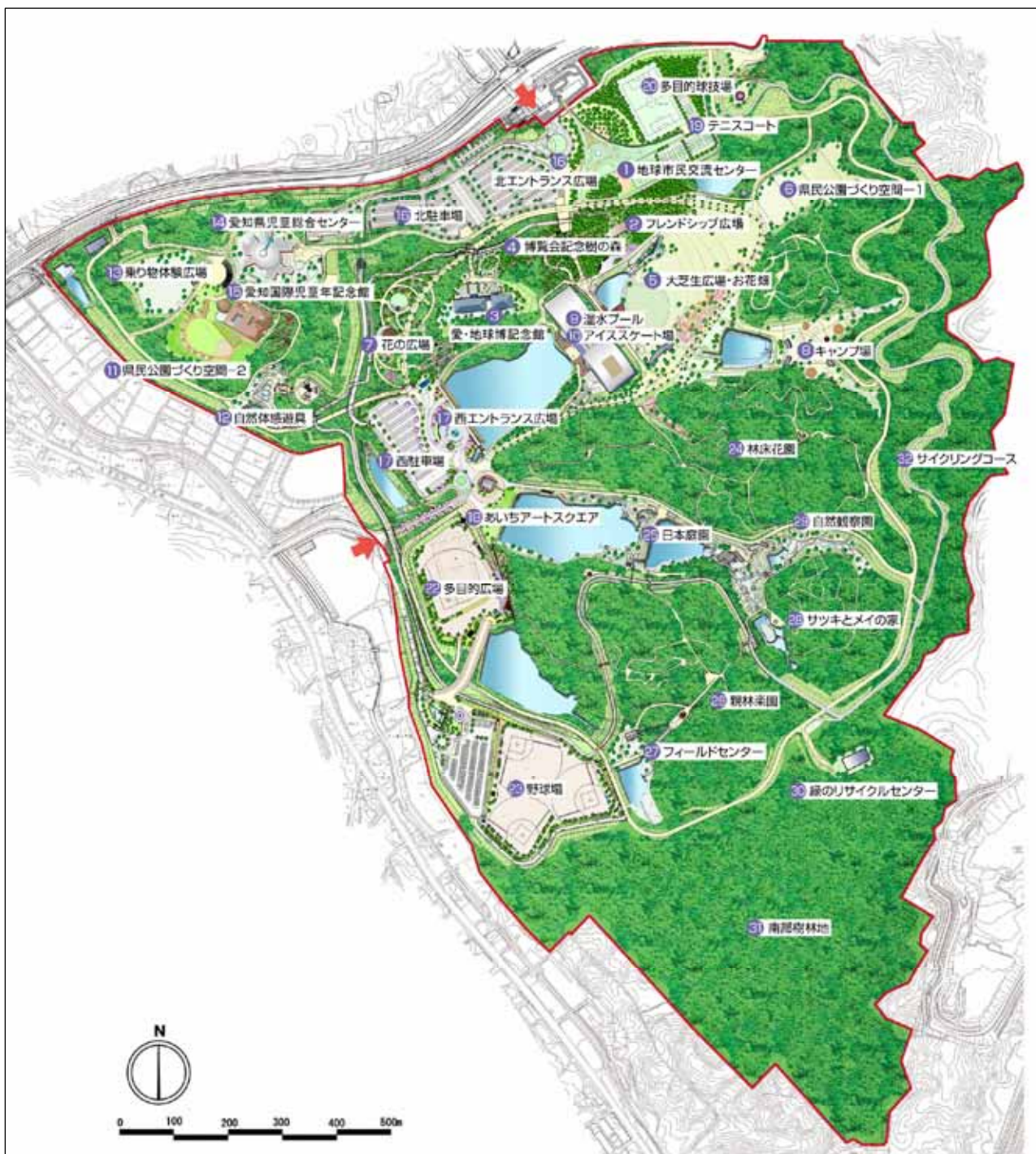




## (2) 基本計画図

公園の基本計画図・施設一覧は、以下のとおりである。

### 基本計画図



施設一覧

ゾーン	エリア	施設名		施設概要
ひろばのゾーン	アイデアのひろば	①	地球市民交流センター	市民参加・交流活動拠点、多目的多用途機能空間、休憩、インフォメーション、屋内運動施設、公園管理運営等 :延床面積 10000 m <sup>2</sup> (室内部4000 m <sup>2</sup> )
		②	フレンドシップ広場	記念公園としての象徴空間、市民等の多様な主体の参加の場 :2 ha
		③	愛・地球博記念館	博覧会開催記念品や映像の展示、迎賓館・レセプションホールを活用 :延床面積2000 m <sup>2</sup>
		④	博覧会記念樹の森	博覧会を記念した記念樹を移植:0.2ha
	みんなのひろば	⑤	大芝生広場・お花畑	広く開放的な芝生とお花畑がある交流空間: 5 ha
		⑥	県民公園づくり空間-1	県民参加の公園づくり空間:2ha
		⑦	花の広場	花木や草花により、四季の景を楽しむ空間、花と緑にかかわる新技術提案の場:2ha
		⑧	キャンプ場	デイキャンプ型、団体利用を主体としたアウトドア空間:6ha
		⑨	温水プール	(既設利用)流水・造波・25m・ちびっこ・冒険の各プール、スライダー、ジャクジー等
		⑩	アイススケート場	(既設利用)外周リンク周長200m・内リンク・スタンド
	こどものひろば	⑪	県民公園づくり空間-2	子ども主体の県民参加の公園づくり空間:1.5ha
		⑫	自然体感遊具	風・水・森の各エリアで自然を体感しながら遊ぶ空間:1ha
		⑬	乗り物体験広場	ワクワク感、爽快感を体験できる乗り物遊戯空間:1ha
		⑭	愛知県児童総合センター	(既設利用)プレイアトリウム、各種プログラム等:延床面積16900m <sup>2</sup>
		⑮	愛知国際児童年記念館	(既設利用)子どもホール、童話館、ビデオ室等:延床面積6230m <sup>2</sup>
	北エントランスひろば	⑯	北エントランス広場 北駐車場	(県道) 石石名古屋線、リニモ駅からのアクセスとなる公園の北入口・駐車場:普通車1125台
	西エントランスひろば	⑰	西エントランス広場 西駐車場	(県道) 田初名古屋線からのアクセスとなる公園の西入口・駐車場:普通車385台
		⑱	あいちアートスクエア	彫刻等を配し、県産材を舗装等に活用した広場:0.7ha
	健康スポーツひろば(北)	⑲	テニスコート	8面
		⑳	多目的球技場	サッカー場1面、ラグビー場1面、ホッケー場1面:(兼用)
		㉑	屋内運動施設	体育館:延床面積1800m <sup>2</sup> (地球市民交流センター内へ併設)
	健康スポーツひろば(南)	㉒	多目的広場	300mトラック1面、サッカー場1面、ホッケー場1面、野球場1面、ソフトボール2面:(兼用)
		㉓	野球場	野球場3面、ソフトボール3面:(兼用)、南駐車場:普通車360台
もりのゾーン	⑳	林床花園	ユニバーサル園路を利用して、四季折々の樹林風景を楽しむ空間:12ha	
	㉕	日本庭園	水や緑に恵まれた環境の中で地域の伝統文化と触れあう庭園:7ha、茶室(香流亭)1棟	
	㉖	親林楽園	フィールドセンター(㉗)を拠点とした環境学習・体験空間:24ha	
	㉘	サツキとメイの家	博覧会人気施設の期限付きの存置活用	
	㉙	自然観察園	水辺の植物や生物の観察空間	
	㉚	緑のリサイクルセンター	刈草・剪定枝をチップ化及び堆肥化し、園内における緑のリサイクルを実践する施設	
	㉛	南部樹林地	保全を優先した樹林地	
全域	㉜	サイクリングコース	1周約5kmのサイクリングロード、一部既設利用	

※表内の色分けは以下の区分による  
 博覧会前整備施設  
 旧公園からの既存施設

### (3) アイデアのひろば 地球市民交流センター

市民参加・交流活動の核、公園管理運営拠点として地球市民交流センターを整備する。

#### 基本コンセプト

##### 環境をつなぐデザイン

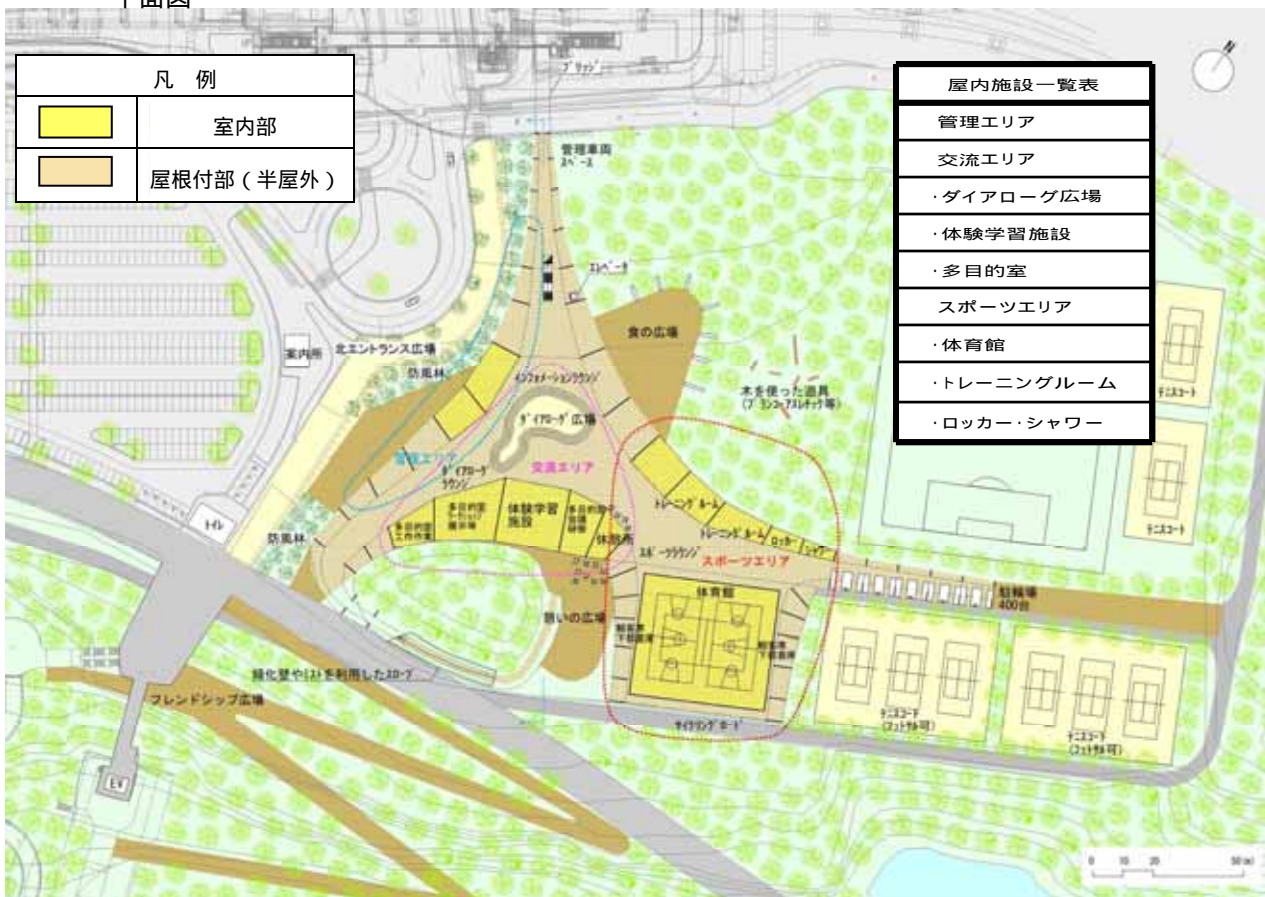
- ・外部と内部が緩やかに繋がれた明るく開かれた空間
- ・周辺丘陵地形のアンジュレーションに溶け込む曲線形状
- ・自然の風や熱（気温）などの変化や動きを活用  
大きくてシンプルでロングライフ
- ・機能にしばられず、多用途な空間構成
- ・周囲の景観や環境、施設と調和するシンプルな形状と構造  
市場、様々な分野の交流や教育の場として活用  
ダイアログ広場をくみこんだラウンジ
- ・市民交流・活動のメインステージとなるラウンジ  
木の内部空間  
風と森を利用した環境制御としての覆い、博覧会の成果等の展開としてのシステムを検討  
市民参加によるデザイン

#### 配置計画

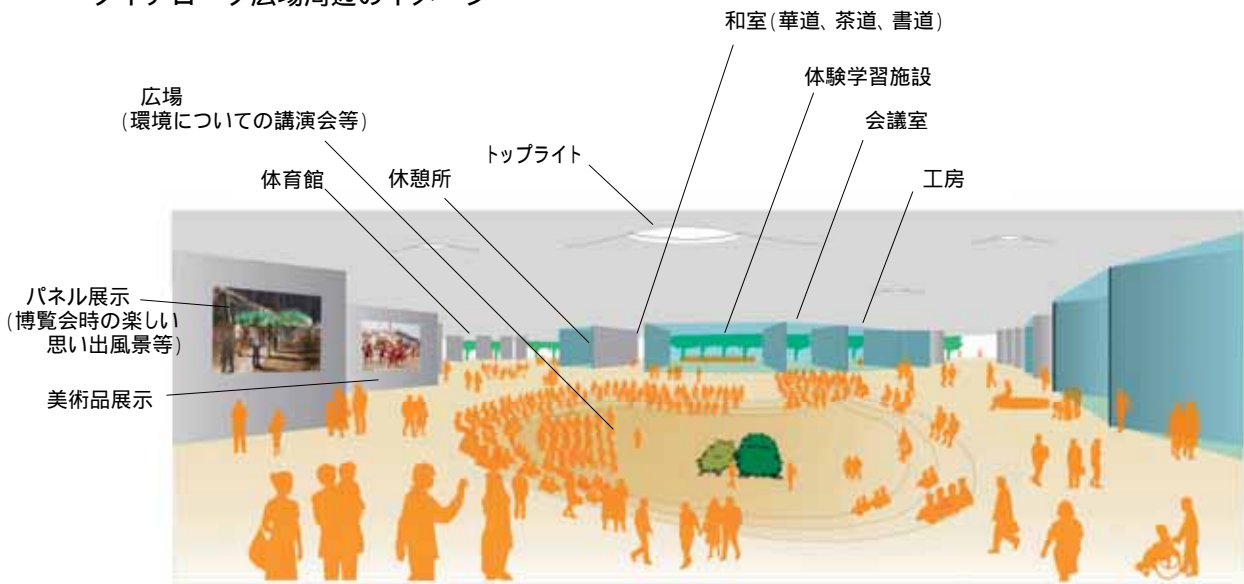
交流エリア、スポーツエリア、管理エリアを配置する。

建築面積：概ね 10000m<sup>2</sup> (室内部は 4000m<sup>2</sup> 程度)      構造：RC造またはSRC造、平屋建て

#### 平面図



## ダイアログ広場周辺のイメージ



## フレンドシップ広場

フレンドシップ広場は、市民参加を原動力に世界中の人々との交流が展開された博覧会の象徴的事業であった「一市町村一国フレンドシップ事業」を後世に伝える広場である。「一市町村一国フレンドシップ事業」が博覧会を盛り上げ、草の根交流を推進した象徴的な事業であることをふまえ、広場のデザインテーマを「一市町村一国フレンドシップ事業」とし、市民参加によりみんなで創り上げていく。

### 構成

- ・現況の斜面を活用した樹林地と広場・園路で構成

樹林地 : 記念ゾーンの既存樹林地から東部の既存樹林地へ連続する樹林帯を整備することにより、公園全体の緑のつながりを確保し、大芝生広場を緑で囲む

広場、園路 : 樹林地内を楽しみながら散策できる園路や、休憩や屋外ワークショップに利用できる小広場を整備

### 整備手法

- ・デザイナー、専門家の参加・指導等による芸術性の高いデザインとする
- ・広場、樹林地とも市民参加で時間をかけてつくり上げる
- ・樹林整備は、ボランティアの参加のもと、公園内既存樹林であるモンゴリナラ等を実生からも育成

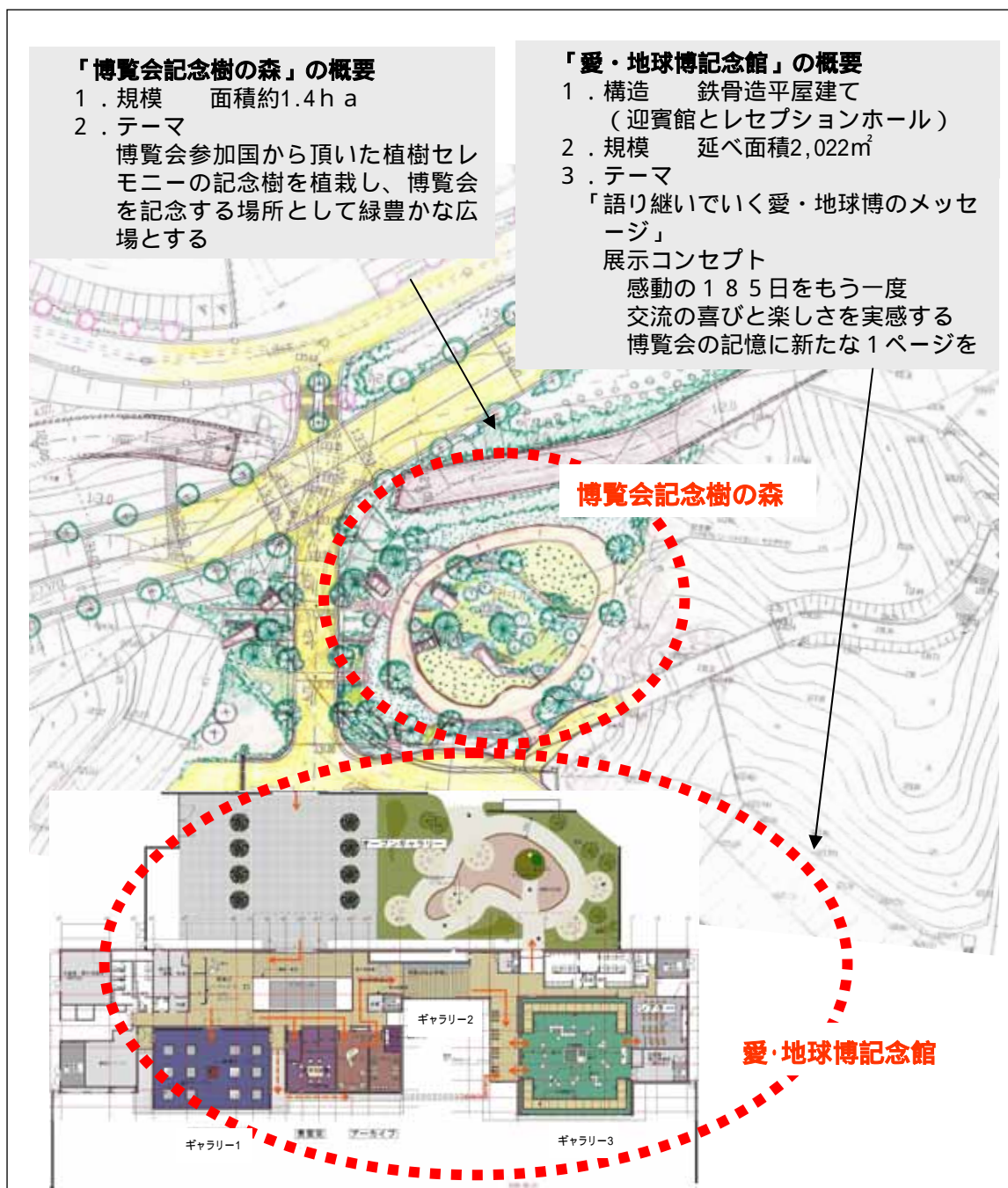
### 利用計画

- ・市民参加型でさまざまなイベント等を、地球市民交流センターや大芝生広場と連携して開催

## 記念ゾーン

「記念ゾーン」には、人々の記憶に刻まれた博覧会の記憶を呼び起こし、語り伝え、未来につなげていくよう「博覧会記念樹の森」と「愛・地球博記念館」を整備する。各施設の基本概要等は以下のとおりである。

記念ゾーン平面図



「愛・地球博記念館」では、展示品の入れ替えなどの管理が必要となる。

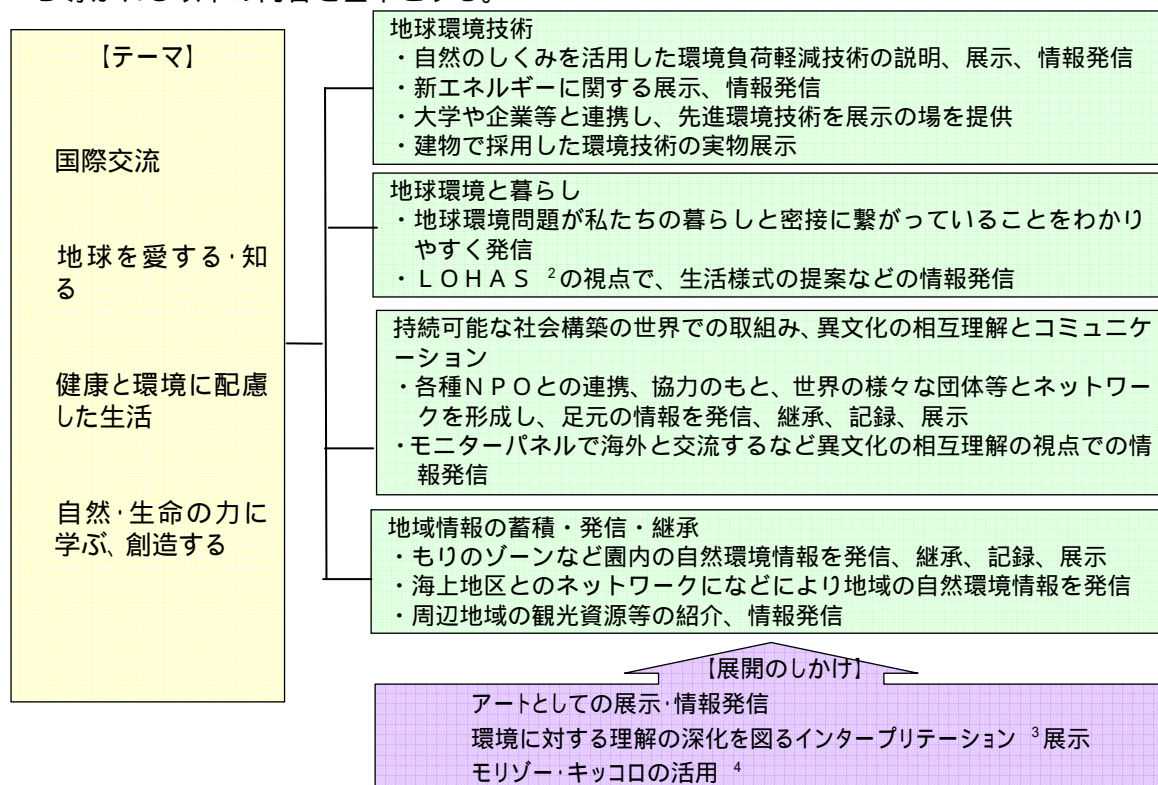
## 展示・情報発信機能の方向性

テーマゾーン(地球市民交流センター、フレンドシップ広場)での展示・情報発信機能は、NPOなどの活動・交流の場において果たされるものと併せて、公園管理者が果たす常設の骨格的な展示・情報発信機能を配置する必要がある。テーマゾーン全体としての展示・情報発信機能の方向性は以下のとおりである。

### 見て、参加して、楽しく、遊び、学び、交流する場として整備する

市民(市民・NPO・大学・企業・各種研究機関)の交流・情報交換の場  
 持続可能な地球環境に関する市民の意見発表、情報交換の場  
 市民・NPO・大学・企業・各種研究機関の連携による各種交流イベント開催  
 地球環境を楽しく学ぶ場、地球環境のための活動の場  
 来園者がいつ来ても楽しめる常設の骨格的展示  
 ワークショップ等、市民活動の場  
 ESD<sup>1</sup>に基づく活動の一環としての展開の場  
 公園情報の記録、発信  
 公園内やその周辺の様々な資源についての情報の記録、発信  
 市民・NPO・企業・各種研究機関による活動の記録、発信  
 博覧会の記録展示や継承事業などについての情報の記録、発信

また、公園管理者が展開する常設の骨格的な展示・情報発信の構成としては、テーマから導かれる以下の内容を基本とする。



1 ESD(Educational for Sustainable Development の略) 2002年に南アフリカ開催ヨハネスブルグサミットで日本の市民と政府が共同提案し、同年12月の第57回国連総会で実施が決議された「国連持続可能な開発のための教育」

2 LOHAS(Lifestyles of Health and Sustainabilityの略) 健康で持続可能なライフスタイル

3 インタープリテーション:参加者自身の興味を刺激し、関心を引き出し、わかりやすく、楽しく解説するための方法

4 モリコロの使用は、愛・地球博の理念との整合性や継承・発展に資するとして財団法人地球産業文化研究所(2005年日本国際博覧会協会より権利を継承している団体)が認めたものに限るとされている。(青少年等への環境学習プログラム、愛・地球博の開催を記念する事業など)

#### (4) 主なひろばの整備イメージ

アイデアのひろば 博覧会の理念と成果を引き継いだテーマ(環境、交流)を展開するゾーン。  
市民参加・交流活動拠点となる地球市民交流センターやフレンドシップ広場、愛・地球博記念館を配置。



大芝生広場・お花畑 大勢の人が参加・交流できる多様なイベントに対応する広く開放的な空間。  
県民参加イベント・プログラムの主会場として多目的に活用。



花の広場 花や緑のまちづくり推進に役立つ緑化技術や、花を生活に取り入れるライフスタイル提案の場。県民花づくり花壇や、バイオラング技術を活用した垂直花壇、壁面緑化した休憩所を配置。



西エントランス広場 こいの池や周辺の樹林からなる地形と温水プール・アイススケート場などで構成される背景に、水や風の流れをイメージし修景する空間。様々な交流スペースにも利用できる公園西口のエントランス空間。





あいちアートスクエア 公園の歴史を活かした彫刻やアート作品を配し、瓦などの県産材を活用し修景する広場。



キャンプ場 学校教育等の団体向け施設。  
ディキャンプ等のアウトドアレクリエーション空間。



## (5) 県民と行政のパートナーシップによる公園整備と管理運営

県民と行政とのパートナーシップによる公園整備と管理運営の方針は以下のとおりである。

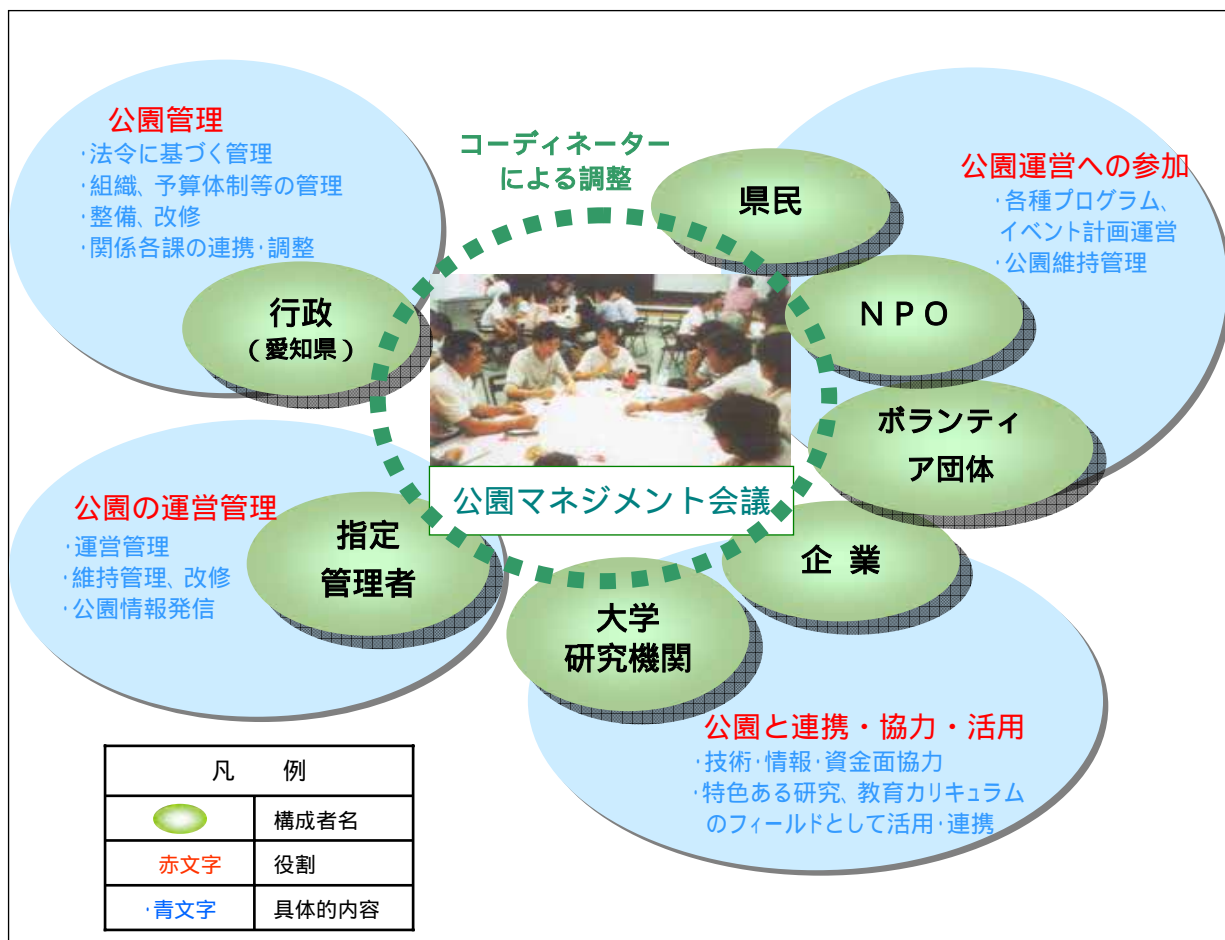
### 様々な段階での県民参加の推進

本公園では、博覧会の大きな成果である「市民参加・市民協働」を継承し、公園の計画・設計・整備・管理・運営等の様々な段階において県民参加を推進し、利用者みんなで公園を育てていく。

### 公園マネジメント会議の設置

本公園に地域の人々や企業、NPO、大学等が効果的に関われるよう、各々の役割を考慮し、県民が互いに関係しながらみんなで公園を育てていく管理運営を進めていくため、県民と行政のパートナーシップにより構成された「公園マネジメント会議」を設置する。ここでは公園管理の基本となる管理内容の他、役割分担、市民参加プログラムの検討を行う。

公園マネジメント会議の構成者とその役割



## ボランティア活動の推進

公園管理運営について、県民がボランティアとして参加できるシステムを構築する。ボランティアを公募・養成しボランティア活動が実践されていく中で、活動者自身の発案によるイベントやプログラムの企画運営など、公園管理に公園マネジメント会議を通して自主的に関わっていくことができるようにする。

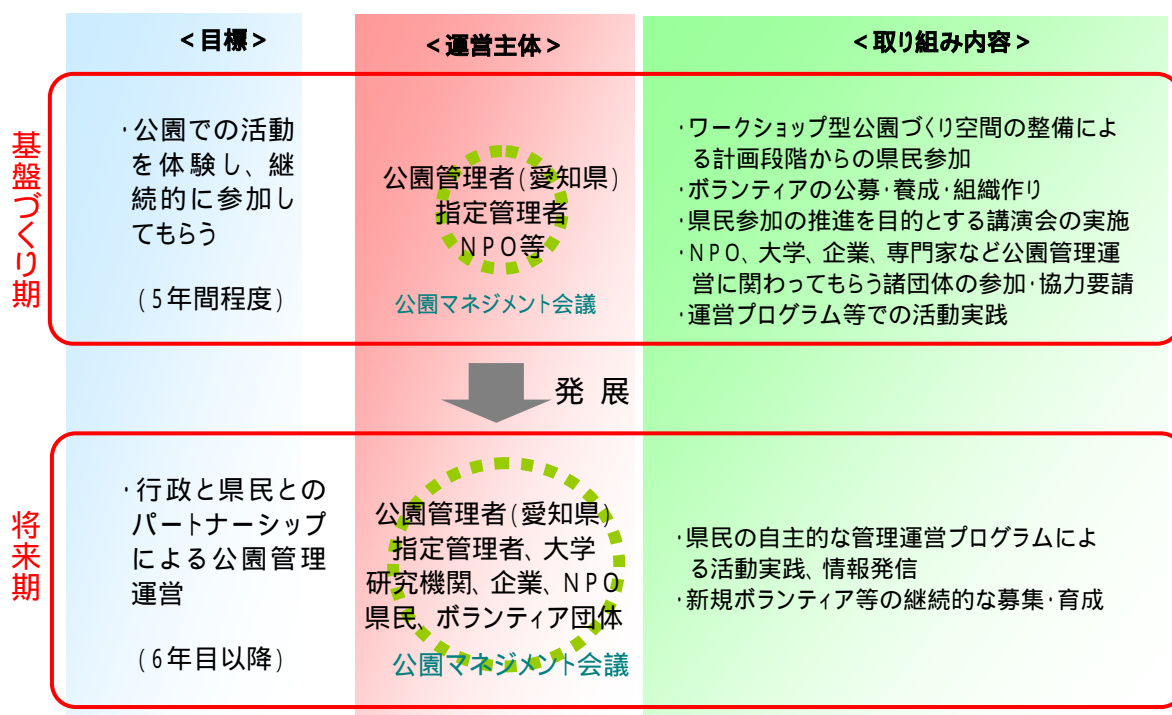
ボランティアは、地域活動への関心が高く、豊かな社会経験を持つシルバ - 世代や団塊世代などを中心に公募・養成し、園内フィールドを、世代間交流の場、自分の特技を生かす活動の場、生きがいつくりの場として提供する。

## 県民が主体的となる管理運営への段階的な発展

管理運営に関する県民と行政とのパートナーシップは、短期間で構築できるものではなく、継続的な活動実践のもとに徐々に進めていく。そして将来的には、行政主体による管理運営から、県民と行政とのパートナーシップによる管理運営へ発展させる。また、パートナーシップは公園内だけでなく、適切な県の関与を図りつつ、外部に向けて発展していくような方向性を持つようにする。

段階ごとの取り組み内容は以下のとおりである。

### 公園への県民参加のステップ



## (6)「サステナブル・パーク」の実現に向けて

「サステナブル・パーク」の実現に向けた取り組みを進めるにあたっての留意事項を以下に整理する。

### 県民参加を組み込み、県民とともに成長する管理運営

公園マネジメント会議の設置にあたって留意事項

- ・マネジメント会議の運営には、コーディネーターが必要不可欠であり、その人材の確保を行う。
- ・マネジメント会議の運営が、その設立趣旨に沿って進められるように学識経験者や専門家などに助言・指導を頂く仕組みを検討する。

施設づくりから、企画運営、維持管理等、様々な場面での県民参加の取り組み

- ・県民が計画作りから参加し、県民の意見・アイデアで空間整備を行う場を設ける。
- ・地域社会へのかかわりが薄かった団塊の世代の大量定年時代を迎えるため、これら豊富な知識と社会経験を持つ年代層が、これまでの経験を活かし環境学習や子育て、森づくりなどの活動に積極的に参加できるような仕組みを検討する。

地球市民交流センターを核として、市民ボランティア、NPO等の国際的な連携の場として整備・運営

### 地域とともに成長する公園

周辺市町村や周辺の観光文化施設、公共交通機関等との連携強化のため、観光・イベントなどに関する情報交換の場の設置

周辺施設との利用連携や地域イベントとの連携の推進

- ・情報交換の場を活用してリニモ沿線観光コースの設定や周辺施設を歩くウォーキング大会など連携型事業を企画し、地域全体での活性化に向けた取り組みを推進する。

### 愛・地球博の理念の継承と発展

シンボルとなる地球市民交流センターの整備にあたっての留意事項

- ・利用者となるNPOや関係機関などの意向を設計に反映させることや当該施設の事前PRの観点から、これらの団体に積極的に情報提供やヒアリングを行う。
- ・また、PR活動の一環として、建設プロセスを見学できる仕組みを検討する。
- ・環境をテーマとした展示などの施設整備においては、完成度が高い技術についてはシステムとしてしっかり組み込み、発展過程の先端技術については展示として取り組む。

ソフトプログラムの展開

- ・博覧会で展開された自然体感プログラムなど、地球環境を意識した日常生活につながるソフトプログラムを展開する。
- ・プログラムの展開にあたっては、愛・地球博で活躍したNPOやボランティアの人々の経

験や技術を活かすために、博覧会参加団体などとの情報交換やスタッフとして関わってもらいなどの仕組みを検討する。

公園運営の基本戦略としてモリコロを取り込んだ仕掛けを展開

- ・モリゾー、キッコロは、愛・地球博のマスコットキャラクターであり、環境問題に関する意識啓発の取り組みなど、博覧会の理念を継承・発展させる役割を担っている。このような性格を有し、本公園の愛称（モリコロパーク）ともなっているモリゾー・キッコロを本公園のキャラクターとして育て活かしていくことを、公園運営の基本戦略とする。
- ・この考え方に基づき、例えば「モリコロの森づくり」やサイン計画、イベント、グッズへの活用など、環境に配慮した生活につながるメッセージをアピールするキャラクターとして積極的に取り入れる。

エコマネー制度の推進

- ・エコマネー制度の普及を図るため、公園内での環境活動に対してのポイント発行や、還元メニューの検討を進める。また、将来に向けて、エコマネーセンターの設置を検討する。
- 環境に配慮した交通機関であるリニモの利用促進
- ・リニモでの来園が、CO<sub>2</sub>の削減など環境に配慮した生活につながっていることを情報発信し、環境保全の面からリニモ利用の推進を図っていく。また、他機関が実施するリニモ利用促進策と相互連携を図りながら進めていく。

万博の理念に通じる国際的なイベントや交流イベント等の積極的な誘致

- ・国際機関やNPOなどが行う国際的なイベントや国際会議などを積極的に誘致していく。例えば、「国連持続可能な開発のための教育の10年」の関連イベントや「上海万博等国際博に関連する交流イベント」等の誘致が考えられる。
- ・県内の地域伝統文化の交流・発表の場として積極的に活用する。

## 空間構成・施設計画・管理運営

利用と環境保全両面からの設計・整備・運営

- ・公園の設計、整備、運営に当たっては、常にお客様の視点を基本に取り組んでいくとともに、環境保全面から、この公園に生息する動植物への配慮も十分行っていく。

幅広い世代の利用に対応した空間の整備

- ・ユニバーサルデザインの充実とともに、ガイドボランティアなどによる運営面での対応を図り、人に優しい公園づくりを推進する。

環境に配慮した整備

- ・県内の山間地域との連携等により地球市民交流センターなどの建築施設や、休憩施設などへの間伐材やアィクル材の活用等を進める。
- ・リサイクルセンターを利用して刈り草や剪定材等の植物廃材を園内の維持管理や整備に積極的に活用する。

## 4. 災害時における活用

### (1) 災害時における活用

中核広域防災活動拠点である本公園は、災害時において救援部隊（自衛隊等）の活動拠点として活用されるため、そのための機能が必要となる。そこで、本公園の広場や建物などの施設は、平常時の一般利用に加え、災害時に必要な防災機能を発揮できるものとして整備を行う。

災害時における公園の活用について、中核防災活動拠点として必要となる機能を踏まえ、以下のように設定した。

平常時の利用と災害時における活用

	平常時	災害時
機能	【広域公園】 ・広域レクリエーション需要を充足する公園 ↓ 広域型レクリエーション （防災の観点からは、防災体験・教育の場として活用）	【中核広域防災活動拠点】 ・全県に及ぶ災害、大都市の災害に対し、全県で中心となる活動拠点 （受援及び応援のための集結・集積活動拠点） ↓ 救援活動拠点 ・救援部隊の防災活動支援機能 ・救援物資の備蓄及び集配機能
施設	・地球市民交流センター （公園管理運営・市民交流の拠点） ----- ・多目的広場、多目的球技場 ・キャンプ場 （防災体験・教育の場としても活用） ----- ・温水プール・アイススケート場 ・児童総合センター ・大芝生広場 ----- ・野球場 ----- ・駐車場 ----- ・幹線園路 ----- ・備蓄庫 （災害時の備蓄物資補完倉庫として配置）	・救援部隊の指揮所 （救援活動の指揮、関係機関との連絡調整） ・指揮所勤務要員の宿泊所 ・救援物資の集積・仕分け・配付場等の救援活動スペース ----- ・救援部隊（自衛隊等）の宿泊地・ベースキャンプ地 ----- ・救援物資の集積・仕分け・配付場等の救援活動スペース （輸送ルート・雨水対策に配慮した広場、指揮所周辺の建築施設を活用） ----- ・臨時ヘリポート・駐機スポット （中型ヘリコプターに対応できる広く平坦な空間を活用） ----- ・救援物資の集積・仕分け・配付場等の救援活動スペース、通信所 ・輸送車、緊急車両への駐車スペース ----- ・輸送車、緊急車両の通行幅員を確保した輸送園路 ----- ・備蓄庫

平常時・災害時における利用イメージ図



